丹鶴叢書

濱松中納言物語　三下

093.1
2006
佛教大学図書館
2005494666

濱松中納言物語三下

あやしうさて語らるるうらうたき人のをさなき
この殿いとおよすけまかりてつかさらむ。うさまをと
のたちとまかやうにさうつくしうたなるこの
なるむこをいとうらやましがるをさなき
さて語りまかりておほえまもおろかなる
人さへなきをるへしとあれたちつきやせも
まさおろかなる人まかりむ先をみいとの
おそをる程をさのうおこるいさをみさく

千鳥文庫

てまつりむもこうるさまにいたりうとあさ
まをぬるとたるやをうもみせうるとあて
ひあ〜はひ音さやてそ〜ゝたまし〜ぬ
あの〜ゝあてゆ〜そうはは音し〜さを秋のすゝ
きうとかもおそうひあさみとうとなるさうとの
なるとゝ〜音姫とうたるほうとをなうん〜
ちちうはらるるゝ〜おこなひはて〜ゝひ
もかをひえんなる秋〜ゝをのをうちあめ〜うて
みをうちあゝ〜すのこ秋なる色〜るおし〜うをう
ゝるひぬをなかいゝはまし〜うもをあゝさう

ぬほうまはうもし〜もてのくいまひつをもをて
ひをうをゝ〜ゝいのうをゝ〜ゝこのはをとゝもなゝま
あをはをのをゝまをゝるもみとうゝるおゝ〜をあさ
をゝなるのはをゝひあゝ〜ゝもとゝるゝはあさ
あかの音し〜やういみし〜をゝらむいうあゝいを
をいゝ音をゝのうをゝをうゝうほひあゝるはをを
さをめつゝし〜うをゝし〜ゝゝをゝる人の用うて
ようをもなうほものをゝう〜あをゝのうゝをたう
みをすうをいみし〜うおもひうをゝをあし〜るゝいう
ゝ屋もを秋つうをゝをあをゝうをゝるうゝをゝをゝのうをゝ

六一番

みるをしるしまつもみさるとしらるるもの
きのうへにあくさもをとものあるをふかさらるを姫
の宮にうもなるめまるはさまをせてくハさらら
くのむのくあるをとゆきのうへよりもるもるのく
をとくのくのくのくのくのくのくのくのくのく

六二番

うきあるこまるはつるもあるまもちも
をのうへのゆきもあるをはをつをきをハせを
いるいるほまるゆきをのみなをのをふをを
をもこのゆををとをあるををををををををを

七一番

いるなるまるもいるんはくなるおけらある
るるるあるこ人をるるるるあるるるるるるる
るるるもあるのまるまつるあるもるるるこのひて

七二番

さまのるるるはいるあみるやはるるををを
れるゆるるとつみのふるるるやはるんつるるる姫
あるをるるはやゆるるるるるるるるもあやまう
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

三人の序几帳なるさえ人をきへてまつるとれ
しやとをちやふうちそひすのいを大沙のむ
き絶のるすあさてきえてまつるふしのそ
ちよいのうたゝ稀てあさてつるたゝきに社
えのなゝ社るこゝかゝきさいえてあく
幸の法稀のあてさまるもまもうけまえまし
うもあてつるぬやう社ふるまいなてをひよて
侍らさらましをゝ侍てつるふうきみてまやま
しくさふてぬゝかてちて侍あ有うちきさ
まをて侍てふ侍とのてもてる赤してまて

糸もんのゝこのさえてあのぬましきまくいてつ
らいすつをてをちのつてあて（五一本）けてをてをてて
きこのてをもきてをををいてををけようち
をてをてめててをむ人のんもてあさむいあふ
うをもむ大沙のいみしきるすをいきてえてまつる
人ふいつてうはをををあてを稀へちむたなのすふる
むきをんをすぬいてつををきを中あいををを
んてをむしいををををいなをいあをいてゐさういて
きてるふをもんのをこの侍ふをとをいををきるもまつ
人中をむしををろのさをてををふをををてをを人て

[illegible]

一　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うるとまつるけんつのそいたなるむひるをもくるまに
とうおほめさまきとのおとこ大ねはの品
ひとこえ行くんさるかが将のえのとのんをくるさ
うるむしまとのこいやこはるようちてこそのつるぬ
はあるこまるふこくんこまるくるさやふ
あつこいこるかくやこあんとのこそこ行よ
仏事のはくくも神仏をそつもこるはゆさ
きのさいこしきこんちいちこまこまこまふ
むんこそもつるあそのくくきくるいこむんなく
あるまくこきまこあつこくんもこのるんさこ内

ほこんとのこおおの勢ハいこなるむむさるもこれく
るのうんうこくくこもおこるぬこくくのまるかこて
あさのくくこんこらも姫くあるこそくひつり
さるこきやんさこなるこさよるくのいこされハれよう
こうすこくるここまこまくのこおこもこきこく
ぬくおほこるこもくもあくんくこうこうあこのこうハ
れこるここあくここのこそくあこてのみハくのお
きんくここさのまるまくんくこぬここまおこやの
あくんこまこんくくかこれここなくんここはいのん
やこここここなのここくこもくこうこうのハ

いさごのいろをやどすとぞきゝぬ　なをなほもきゝたゝ
ねばのまくまいあうむもふることのうゝまくおもさんも
つみあるくさのこゝろおもてよりぬものをれたもを
ゝこゝろをくゝるゝるのうゝまくおもかうの法はて
ゝもさやうゝほのめゝ法はいみゝうゝるゝ
うゝはゝるゝるまくゝるいゝやゝもこのくゝも法
らむもゝゝ法むゝうゝもあゝゝゝ法ゝゝゝよゝこゝるゝよゝ
すゝうゝおゝゝゝゝけゝのゝゝゝひ法ゝゝを法ゝゝ
うゝゝいゝゝむゝゝゝゝゝあゝゝゝいゝゝゝゝゝゝゝゝある
ふゝゝゝゝゝあゝふゝゝゝゝゝゝゝあんめ法ゝいひめゝゝハ

ゝあゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ

くやうあるとく山をとらえ八うゐおとかるをくて
まつを結ばいるるまるけよのつはなる仏たるの
つくるとるさ仏の佛のたるさとゝのものもも
おたるえめもおるをいみーうくやうをるる
日のあつさてはるゝよるをあてたつるは
えるゝ十二本く大将とのうくまさぬてのるのうく
なるゝるを結るゝーあめ〳〵おるまゝとを結
さまゝめてかるまつるをえるゝるとるるるる
ひなるさをるいるのおるくみとるゝふるゝかるる
（衍ん）
るるるたるるゝーるもゝのいゝ花のいろ〳〵えるるるる

かるるほるゝまるるゝふるるくるの八るるゝちのいけも
ゝうるるあるゝめるゝゝるゝやるをるるるゝくいみーるる
ふあるゝーの中ゝるの佛るるちあるるさ仏まるふけく
ゝうあいるるやうゝるるるるるゝ十二本あるるるるる旬ふ
るるもゝーくおるるるちいみーうるるるよいをるく
結るるるのうるるるのつるはあるるまーうおるるいい
るるみるるるさまいみーゝうむるるさ結のるるるあも
あるるゝのハをんるるの人もゝのくるるちいるを見るを見る
るるるかるるるるかうめるるたるるおるゆるるるを大るも
るるるるゝーのうるるみもはるるるるるるあるれ滅

くまのうらにいでたりしときのうたにあるまつさ
るのうらおほきさきさうの所にまもりあるうら
あひむすびのうたにくまのうらにかくれたるかたうら
めうあるをとあるのまをかろうしてよう
うのうたにのちにこのまをといふまつむと
いふにうれたりしるまつふさとともこのうた
あるを物語にはいのうまをいつるようにうちとけ
もしらいまつひにあるあるをふうをきとさま
ちとふこのくあるとまつとともうちのひにに
のこのようにいるとにあるとにもいるとにつくるとの

あうにしあつこのまぬ人のことにあるまうひのこ
このうちにうたへあるぬとうのまの所にるよ
ぬのうにひしのひにまうこのくのあるにふ
うにくしさものうにの所にもうるもにい
あうあひまさに所へも大ねのうをとう
きまぬにいうみまひしくまうにふき
ちのうぬるにうをみるうをうのう
こむしのうとくにうにれにつうれにとを
ううるとうをうにうにあるにいるにうを
もあるにとにみしくにはのうのにとのんうめ

てんとんあくるをまちまいる六月の月みて
うたのうちにこの家に古あるいまもまうさ
くさのようもあのようもさまざまにわりてきき
ぬもの〳〵の古さるあをきるうらをもうあま
てくあうくさるくさるにおもちゐぬるうてくも
ゑ給てゆるくつてかの姫宮をにゐをうす
ほうもあくさまもまにゐまんあるいみしのうちを
さまうものみちをおやうてうさいるあまを
ゐいまもちくゆまにてまるむもその事と
あきらいまあやしうるへしんを海くて

もけとうさうにゐいまもくいるおらん
とおしまうおくしようもいもしるさまを
さうあうをいほうさるうくうのな
うきみを給い家んともうしみしうをい
まくいくもへいまもうつくかにゐうう
もつうくにゐしおうなう給をもくのをんを
まくおほしなるへうんめるもう升をくも
ゐうをまるうくうくいゐんのやうるくこうゐこ
くまつうをみしあうやう家んのくをうをを
ハあうくおほくをくもこのこのえしをしけ

しきおやこすまもとしあるつるちきこまもと
うくさをとこてもおそるめものなるけすとん
きこまこのうはさつのこころをこといとまもけ
うこ音てしおほきをとしてしまさゆき
あしみのつへきやきもあくこうもおほれてん
らむ法こんの屋とこいやるむ法きむこるむ
れなしこのうちはるをあるもうこいる
さてなるこもいをのうこのきをんしこをのむる
るくさこもこるこんさしつこきを拾るあを
なるむここてくきをとこをきて身をとくこのこさを

いまをかの法あさここしよるやうもあらめさつの世
をもさん（ナシ一本）いうのるる法をとこをこをもやこぬる
そこをこいつこをこいそんのるんをんこもを
まこいうをるこもの法れをここらのはをみハ
さまるをしをうをくこもここをみよをここしこ
おほこのをこをこをやるあいこをるをやう
こおををあいこをるこをさこれのおこをもむ
法んのこをとをまほくこいこるむこくこをを
こつのはあこをここしくいあんこをるくこ拾ん
をここをまこうをおここをもこいんこうし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

へるとこさかいしめしてとうるくつるくゑんーせそ
まるるるくる々そえいとこるいあるとそ
めぬるなるとふそあふめつーうたんーくちの
くさふゝ姫人もなるそあそとそいのがうたし
けるいいせさ芳ゑうくさーもあさるのこと
あくさいの世ーまるそたうとこゆるまてやあと
ーはこそを絵くまそ侍ーこそふいとめもさて
ろもあるそぬさとのみさふゝぬめるーうくせ世ハ
おゑるるうこよゑうこのそうそもめつーうこゆる
事もさふうそるさうーとそ絵ほらうハあふ

（と一本）

信松

るるとうハゆ仕くさ心やうこさうの八月十三夜
月のそんふあるやうんのさ古さのさん記ゑハ
ーとそゆいてめとふつるなるくのさ絵てー
きそもめこさうーはこみそくさ絵くもましいて
やみうーをこのうつひーとそをるつふよるうう
もそつくのるーさいをはそーはいそしいてぬ
そくくむそるの古ゆるつきをくけるむーくるは
むのるそをこのくくやうなるもくそもをーこは
ゆみーうるいきゆんういくをのこるさんさふ

（十二本）

（十三本）

つるのぬるこのーさいうきくゑれるもつるはこそるそ

女のさくをしることをいとめつらしう侍るものと
ものいひてゐるつらをしてこそいとみしのとをるる
ことよ　おとこ　ことそとをるものよかのくるよの一の
大とのむさもんとうめのはさ一のこはさをえ
さうとをのまつはさうれうえやむて
あのうとし　ぬさ三四をおるあるれめの
ものやうをふ侍るもあるもをいをして侍さ
まんおうん　おんなをしてくふの道くるのしん
ものをしてをいるうなむ侍るをしをしを
さ四あるいはるをおるよをる侍らさを

さをおかのおるうれをるうをふのうさをを
おるうをふ一みうをうをを一ぬををまうをふ
おるうさををををををををををををををを
をかうやうをんをいををろををみおをををを
さをいを三のををのをををんのうをかさうをを
うををやうををいををのやうををめををおを
ををあうを一のをさををををををををををを
ふをおをうをををををををををををををを
いををををおうやうをんうをおををををの三やの
おくをのををををををををををををををを

さきもたちふとゝろもたゝうきくるゝ十月ちるふ
うもしくるゝふのことなむしらぬ（ナシ一本）
まるゝくゝ伝るこゝハみをまゝ行くくの
花とあるめてきんをゝ伝るこゝ人のるもを
さ四ふをの秋くもおゝをみゝくゝ人をん
るくゝとこのるゝををゝ出ゝをゝやゝるゝん
ゝゝを秋くをさゝ伝るゝゝゝを出ゝるゝを伝
らをむのゝとこのゝやゝゝゝをゝいゝゝるゝを
ゝゝゝんゝるゝゝゝ女ゝゝゝゝ八人ゝゝゝゝみゝゝゝる
ゝゝゝゝ

さそとも　このつゝこゝとたゝとてその　ゆゝもちみめ
ゆゝとも　いみーうさふゝしー　ゆゝよ一本　ゆゝ　ゆゝ
くまかゝきゝ　ゆゝるゆゝふみゝとの　ゆゝまくゝ
如方一人とめーいて　ゆゝきん　ゆゝをゝ　ゆゝ
そのゝちゆゝゝゆゝ　ゆゝの　ゆゝ　ゆゝ
ふゝゆゝゝゆゝ　ゆゝゝゝ　ゆゝゝゝ　ゆゝ
ゆゝゝゆゝ　ゆゝゝゝ　ゆゝゝゝ　ゆゝ
をゝいみーう　ゆゝあゝゝゝ　ゆゝ　ゆゝ
女ゝゝゝゝゝ　ゆゝゝゝ　ゆゝゝゝ　ゆゝ
ゝふゝんゝゝ　ゆゝゝゝ　ゆゝゝゝ　ゆゝ

あゝゝゝゝ　ゝゝ一本　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝ
ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝ
ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝ
ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝ
ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝ
ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝ
ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝ
ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝ

しきるあるさま見もあらめてこうおぼしめされ
まめやかなる事ともれたまふるに法いとうと
よの中のもとゝなるさいてしこうとうとう
ナシ本
はゝきゆるこゝ女房とのあるさまをみるに
いとうしろめたくなれとるこゝのうしろたのも
きこえたのつゝさまもいとものこゝろをきな
きやうてんなるみこゝとにはふまこきるへ
きくんもなきくんもこゝいとこのきこゝうくんこゝう
さいやうなるこゝとのみこのうしろこゝとかんあ
かてあるをあるふいこゝをこゝうこゝ音あ

こゝ音をこゝいたこゝのこゝあるさまふこゝさ
ゝあまこゝて終こゝても世のあまいめ見のほこ
こゝこゝやこゝみのいこゝもまこゝるまにこゝあ
のあこゝをこゝもこゝつるゝこゝいこゝるこゝ
よのつるこゝおこゝこゝを終こゝるをこゝいのこゝ
あやこゝみこゝもこゝくこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

まくらのなかふけ女君よりおくりたまふこれあり
しかもあくるまなるをとりふんまてしたしたる
あるとき女のたちつかまつるをうはうくきつ（一本）（十三回立）
おほしいたるむかしのことにあらねどいたり
ときたるまあるまをいとおもしめ天とまは
ふむきこいくみやしまむとたてしたのうち
言んとをもしのたいいんさまのこの法
たう法ふまあくまくきんを法ん方の法る
をきさまくおなつてくさきをけふ（ふ本）
つしのみをきやはしふんをたたいの法の

うちたちつうんやまくのをうまあくしう
めくこれはまをえをいつるの引もを成
たをやまうつくしおほしむおやのたん
のうちをいつくふたつの法このふ社のへ
うもれたんやをのまつ学をもさまい
まををもをを引をまらをさもあるさ
つしつのあるをおをるかをるくをめ
をを出入をを大るもいををしおかを社ん
めをを女天もくををるものつうちをを法人ふ
ふんふなくくるんやむるのあをるのいをを

んとこうもりくはせたりつさしハさるもあるふ
あるこさよあり移ともこのあるこはさやうはこ
ひうこなんさうちもむさはこいてのとやなる
をまひてあるこはやとさうこうおほい
きんめるふさはこはさうはるおふさはんを
よるしはたりくるうあるんくはんん
まをおほやるふあるまりるさんあるち
はくうたりもおをまいをしいふうあるう
もやくんまりあうむこさはのやうとこ
うなはこてしみくうはもみくむをあるはぬ

くををていとくるしのふをしんはをくふあう
きれをうはこつるをいやるくのうむち
よはいあるくく女君ようのをくをあか
をうはこつはくうやうなくみくくさをを
女をあるさまの自くをかうをうをんや
くるあるまうおくをもみくるくくを
はんくはくをるのはをぬくをもはるはむ
をくあれて移んくうなるはくうををめく
をくをはこのうはこやんるもさのくさ来
やうくはむくのふをんくふはもはくまうう

えあるもの　ことを　まうして　ふせ　と　ゝ　ね　ハ　と　も　の　う
も　さ　る　ま　さ　て　ま　ち　ま　ま　ま

をらうたうおぼゆるこゝろをとゝのへてうくのとりなる
ちくまのこゝろもとゝまりてこゝろ弱きぬいそぬる
いそのかつらもまるあくさんつるあるもまをか
きうれいこゝろをとゝのへてこゝろけうんもしとゝい
きくるなりこゝろあらさきふのこゝろ四つこゝろ
弱なるこゝろみの出るハ四をるをこゝなるこゝ
をゆるのこゝをかうこゝたゝくこゝろ川水
まこゝをこゝさ出なるこゝをかるこゝ山路か
ゆへのまこゝもゆへこゝをくるをおぼゆあ
まこゝくハ月十日のうこゝおこゝちをこゝ

あをこゝ秋ゆるあるしぬこゝ山路をこゝ移
ひのこゝをこゝ風のこゝをもみこゝうこゝをこゝ
まこゝまほこゝうこゝをこゝ色の形こゝをこゝ入
をこゝくハあをの音こゝをも秋よなこゝけの気ハ
こゝをこゝゆるこゝちくこゝのむこゝのいろくもみや
てこゝをこゝに折こゝもあこゝ秋をこゝふこゝこゝ
こゝるちこゝなるまこゝふ折こゝをこゝこゝこゝん
の孫のこゝこゝもこゝこゝゆこゝこゝるこゝこゝもう
こゝこゝすこゝこゝこゝあくやこゝんの菊こゝひこゝ
ハこゝこゝいこゝるなこゝこゝもこゝこゝかこゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あうこひやうを侍るくさもちあるをいてのく
きふまるもちうをとりてをさふるふ物よを
の記のうをとも之さんと物へ之ひまうるう
おいのてぬうきもちようたつはさをくハ
さうをもあうかう侍るをんくさのいかを物
きみうハきつはさをるめうを物ををてハん
きうう記をうう物へてまつるかての居
きるへ物なんめうをさうえ之物ハ月以
ハきをうくをんうを物をつてはうてを
ひくう物へも侍るをいひ侍をてうも

なのいるうきうにいみへうを記ようかへうきて
うもれへめをんをうも侍をふおのつう
あさをうかるさうをまうをくきつはさをえさ
きるをておなめをもむををてさる侍うく
くをへさをあへも侍んもひをうの耳も
おをうへうくをもを侍へへうもうへるかる
之ひまうるはをのをさるかをさを物を
へるをうてをんをつはさをを侍ををて
おをうるもを物をきをあをうおへををおし
めをてへをうるてあへひのうかををまいるををうを

く　さるもてくをとゝもゝこゝろ　ゆ　ゆ　ゆ

いろのかはりもとりもつかうまつりうたひきこえてこそ人よ
をの〜給はせんめるものは給はせ給ふなかに
をこそ〜ことをそ〜つかいのまてゆ〜まつり
月いみ〜きみまるこそ〜たきのおもも松風
はやしきもとをあつはんまるはいるもとまるよるに
のこをこそあ〜人あるく〜とおもしやこそ〜
ちをこそふうるふこそ〜ろまるさゆまもなるはん
いるものをこへきこそ〜ふんをもこへをれく
きみなる〜人をいろまるなるむらむふこの
くるまの〜まふのをの月をの給はこそ〜をよろ

〜こそこそこそはへを人をを給へつまを
きをうおほをこそをふ〜をんをを
わ〜〜しのこのまをを月ふみるまをにを詠
をこそこのまをさこそこそををこへこそこそこそ
おをきなを〜凡帳のトををやををつまををを
いこそ〜やこをぬををを〜〜こそこそををのをををまへ
まを〜ふを〜〜〜ををほをふをを〜〜みまれを
を〜ものをこををふをを〜ふのををふををまをる
月を〜ほのを〜〜をを〜ををまをめを〜〜うを
をふへのををもはをぬをををへはをこへををある人

復校